

企画展

伝統工芸の技法

伝統工芸の技法46種の解説
とともに作品74点を展示

平成23年

1月4日(火)～4月10日(日)



平文富士日月盤 大場松魚 平成11年(1999)



「花洛風流」木芯桐塑紙貼 林 駒夫 平成9年(1997)



神代杉造線象嵌台付重箱 福嶋則夫 平成18年(2006)



砂張食籠 魚住法光 平成18年(2006) 遺作

開館時間 午前9時30分～午後5時(受付は午後4時30分まで)

休館日 開催期間中無休

入館料 個人一般 300円

団体一般(20人～) 250円

65歳以上の方 200円

小・中学生・高校生 無料

交通 金沢駅東口10番バス乗場から18系統東部車庫方面
行15分、本多町停留所下車、徒歩3分 駐車場20台

金沢市立中村記念美術館

〒920-0964 金沢市本多町3丁目2番29号

TEL (076) 221-0751 FAX (076) 221-0753

<http://www.kanazawa-museum.jp/nakamura/>



彩陶 雪連山 北出不二雄 平成10年(1998)

開催にあたって

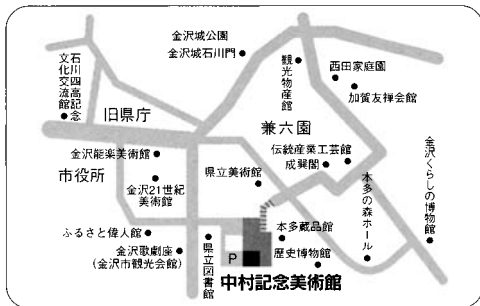
伝統工芸には長い歴史の中で創意工夫が重ねられてきた数多くの技法があります。作品を鑑賞するとき、その技法を理解しながら見ると、そこに秘められた高度な技術、制作に費やされた想像を超える時間や作者の労力を知ることができ、作品にたいする感動も一層深まります。今回の展示では、陶芸（自然釉、青磁、白磁、染付、色絵、金彩、象嵌、交趾ほか）、漆芸（塗、彫漆、沈金、蒔絵、漆絵、青貝、杣田、平文、卵殻ほか）、金工（鑄金、鍛金、彫金、象嵌ほか）、木竹工（指物、刳物、挽物、木象嵌、編組ほか）、友禅、人形など、46種の工芸技法について詳しく解説したA4判16ページの「鑑賞の手引」を用意し、平成21～22年の新収蔵品の公開11点を含む74点の作品を展示します。

新収蔵品の公開

平文芳苑の棚	大場松魚	昭和54年(1979)
平文富士日月盤	大場松魚	平成11年(1999)
長生の器	松田権六	昭和
沈金棗「渚」	前史夫	平成21年(2009)
網代亀甲盆	小森邦衛	平成21年(2009)
蒔絵箱「野辺の風」	清水英姿	平成17年(2005)
砂張水指	三代魚住為楽	平成22年(2010)
砂張食籠	魚住法光	平成18年(2006)
神代杉造線象嵌台付重箱	福嶋則夫	平成18年(2006)
竹網代四ツ菱編花織文笥	本江和美	平成19年(2007)
「花洛風流」木芯桐塑紙貼	林駒夫	平成9年(1997)

主な展示品

白瓷三足香炉	初代諏訪蘇山大正	
鬼萩茶碗	十一代三輪休雪	平成4年(1992)
釉裏金彩牡丹文飾皿	吉田美統	昭和58年(1983)
堆漆瑞鳥茶器	音丸耕堂	平成4年(1992)
曲輪造青漆金彩盛器	赤地友哉	昭和58年(1983)
砂張銅鑼銘和鳴	初代魚住為楽	昭和37年(1962)
桑造銅鑼架	水見晃堂	
加賀象嵌馬置物	高橋介州	昭和
樺造波紋木象嵌短冊箱	灰外達夫	平成11年(1999)
友禅花鳥文振袖	木村雨山	昭和23年(1948)



金沢市立中村記念美術館

〒920-0964 金沢市本多町3丁目2番29号
 TEL (076) 221-0751 FAX (076) 221-0753
<http://www.kanazawa-museum.jp/nakamura/>



色絵更紗魚貝文徳利 北出不二雄 昭和56年(1981)

色絵 素地成形→乾燥・素焼→透明釉施釉→高火度焼成→描画→低火度焼成という工程をへて完成する。描画に用いる色絵具はガラス成分に呈色成分が混ざるもので、呈色成分には、鉄（赤、黄）、銅（緑）、コバルト（青）などがある。



沈金漆筥 いばらと蝶 梶道幸 昭和57年(1982)

沈金 宋代の中国で発達し、日本に伝えられた漆芸技法。漆塗面に線や点を彫り、文様を表す。→線や点を彫った中に漆を摺り込む。→金箔を押す。→漆が乾いてから余分の金箔を払うと線や点の中の漆に付着した金箔が文様となる。



金胎蒔絵漆箱 美奈面 寺井直次 昭和62年(1987)

卵殻 漆芸で白い色を表現するため工夫された技法。鶉や鶏の卵の殻を細かく砕き、漆面に貼り、文様を表す。工程は、漆面の卵殻を置く部分に筆で漆を塗る。→卵殻の細片を置き、その上に漆を塗る。→卵殻が表れるまで研ぎ出す。



木彫胡粉彩色人形 雲雀笛 室田芳子 昭和53年(1978)

木彫胡粉彩色人形 桐材を彫刻する。→胡粉（牡蠣の貝殻を粉末にしたもの）を湯で溶いた膠（動物の骨などに含まれるゼラチン質を抽出したもの、接着剤になる）に混ぜたものを表面に塗る。→彩色を施して完成する。



加賀友禅小袱紗 雉子 能川光陽 昭和57年(1982)

友禅 下絵（生地に下絵を描く）→糊置き（下絵の線の上に糊を置く）→色さし（糊置きの線の内側を彩色）→中埋め（彩色した部分を糊で塗りつぶす）→地染め（文様以外の部分を染める）→水洗（流水で糊や余分の染料を流す）